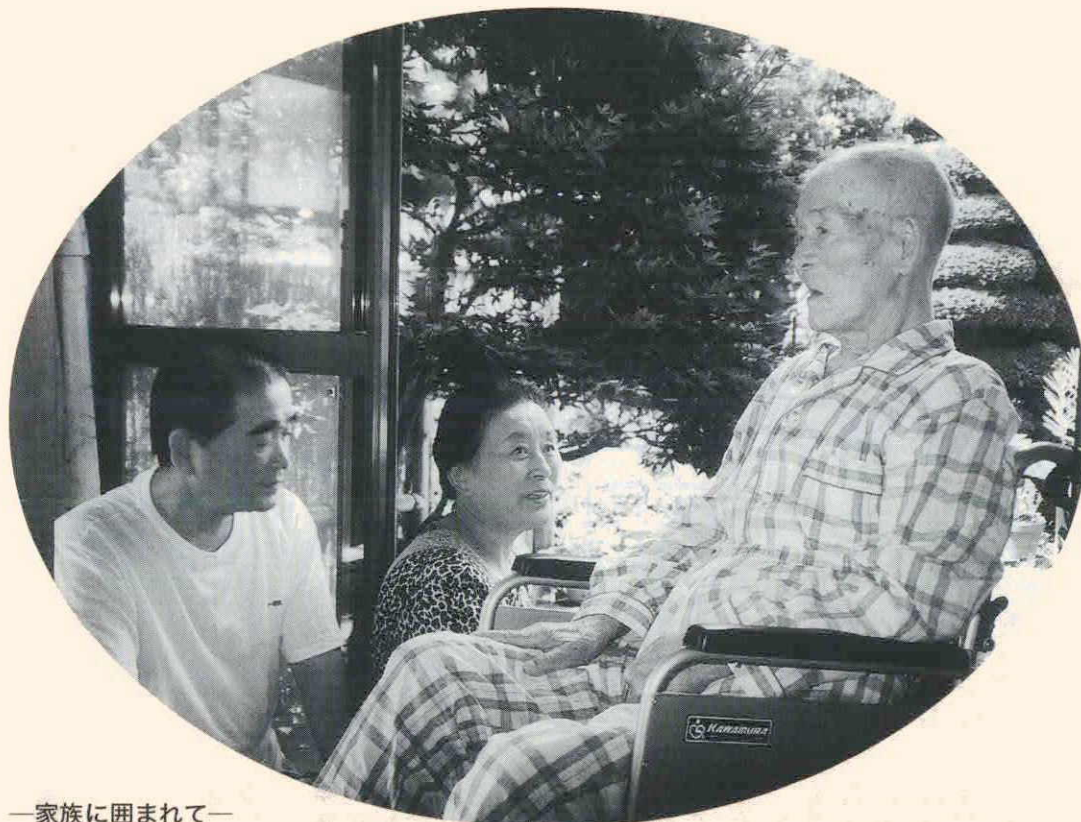


ふれあいネットワーク

社協 まつもと

発行 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 電話 27-2000
編集 社協まつもと編集委員会 FAX 27-2239
E-mail: syakyoum@avis.ne.jp http://www.avis.ne.jp/~syakyoum/



—家族に囲まれて—
「人に会うことが楽しみ」という
岡村由造さん(101)は松本市男性最高齢者です。

健康で楽しく長生きを
寝たきりだつて心は元気で

一人暮らしや老夫婦だけの人も、子どもや孫に囲まれている人も、「健康で長生き」がみんなの願いです。

松本ではそんな社会をめざして、地域福祉計画づくりに取り組んでいます。

寝たきりの人も障害を持つ人も、しっかり支えていく「安心のまちづくり」老人週間は地域福祉を前進させる「誓いのとき」でもあります。

- ・きめ細かな災害救援を……2P
- ・地区ふれあい夏まつり……3P
- ・百歳おめでとうございます…3P
- ・福祉の現場を体験して……3P
- ・チャレンジ町会福祉……4P
- ・ふくしかわらばん……4P

平成16年 No.161

9月15日号

きめ細かな災害救援を

——ボランティアと社協の役割——

「天災は忘れたころにやってくる」

平成七年一月十七日に起こったあの阪神・淡路大震災から早くも九年半の月日が過ぎようとしています。

よく天災は忘れたころにやってくると言われますが、今年の七月には新潟・福井を集中豪雨が襲い、またその後四国でも水害が発生しました。

私たちに「もしものとき」が来たとき、災害ボランティアや社会福祉協議会（社協）はどのような役割を果たしていくべきか改めて考えたいと思います。

防災計画に基づき

ボランティア窓口を開設

災害にきめ細かく、迅速的確に対処するため、市災害対策本部内に福祉救援ボランティア本部を設置します。これは市の防災計画に基づくものです。

ここでは情報の収集や関係

部署との連携を始めとして、市内外からボランティアとして参加する方を受け入れて登録し、その派遣先を調整します。

社会福祉協議会が

作業内容を調整

震災や豪雨の経験から、実際に災害現場でボランティアに求められることは、人海戦術による片付けや清掃などの復旧作業です。それにもなう炊き出しや、救援物資の仕

分けと運搬などといった面でも多くの人手が必要です。ここでは社協による組織だったボランティアの調整が早期復興へのカギとなります。

日頃から地域の

ふれあいを大切に

災害が発生したときには、要援護者の把握・発見・対応に全力を尽くすことは言うまでもありませんが、日頃から地域の人と人が互いにつながって、向こう三軒両隣のまちづくりを行うことが求められます。

社協では市や民生児童委員と協力して高齢者要援護台帳を整備し、見守り安心ネットワークを整え、町会福祉を進めています。

さらに地区支会、分会（町会）、日赤、日赤奉仕団、ボランティアグループなどとも協力して大事に備えるとともに、先の災害に学び、今後は「災害ボランティアのマニュアル」づくりを目指します。

被災地に社協職員が ボランティア参加

七月二十九日、集中豪雨の被災地に八名の社協職員がボランティアに向かいました。

◆新潟県中之島町で

中之島町では地元社協やNPOと、ボランティアとの連携がうまくとれ、協働している様子が印象的でした。今回はハイゼックス製法（特殊なビニール袋を使用して少量の水で炊飯する方法）による炊き出しを行いました。とても好評で、私たちがボランティアに参加した喜びを感じました。

ボランティアの受入れ体制も非常に整備されており、災害発生時の危機管理について、松本市社協も対応をマニュアル化する必要を感じました。

また、土砂やゴミの撤去には人海戦術しか手段がないことも教えられました。

逆境の中で一から生活環境を作り上げていく様子を目の当たりにして、福祉の原点を垣間見ることができたように思います。

◆福井市で

福井市では被災から十日あ



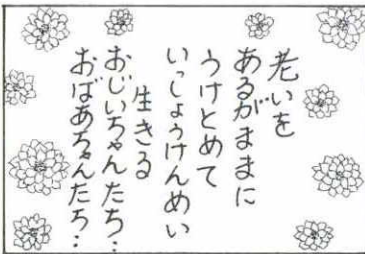
中之島町で活躍するボランティア

まだ被災したままの家屋が多く、私たちがボランティアに参加した日には、何十台ものバキュームカーが床下の泥を吸い出していました。私たちは泥出しが終わったご家庭の清掃作業を行いました。

食事や飲料水の確保ができず、救援物資のカップラーメンやペットボトルが支給されていた。そんな中、私たちが作業にうかがったご家庭からは食事やお茶の心配までしていただき、胸の詰まる思いでした。

たった一日ではありましたが、災害の恐ろしさと、被災者の大変な思いを知る貴重な体験ができました。

あいちゃん
作.上原ゆう子



地区ふれあい夏まつり

鎌田地区



「みんな集まれ心をひとつに」福祉ひろばまつりでは、「ズンドコ節」を踊りました。子どもからお年寄りまで笑顔あふれる楽しいひとときでした。

松原地区



「やっと捕まえたー!」「松原いづら祭」でのワンショット。子どもたちは目を輝かせ、汗びっしょりでマスカみに挑戦していました。

百歳おめでとーございます

本年度百歳を迎えられたみなさんの長寿を祝い、お名前を掲載します。

(敬称略)

赤穂	はじめ	(宮瀬)	吉賀	志けよ	(内田)	武田	志げる	(里山辺)
加藤	よしゑ	(大村)	岩井	美智恵	(埋橋)	中島	五月	(浅間温泉)
小川	貞子	(高宮)	石井	さだ	(横田)	永澤	なか子	(原)
齊藤	せつ	(中央)	興	みさを	(新村)	松田	平一郎	(中央)
加藤	はるの	(城西)	原	知里	(出川町)	横山	むつみ	(高立)
高山	ヨシノ	(清水)	大澤	みつへ	(原)	古見澤	さだゑ	(高立)
藤田	たま江	(今井)	南山	けさみ	(城東)	横山	貞子	(里山辺)
牧羽	孫十	(島内)	象井	壽子	(芳野)	小口	フシノ	(大村)

福祉の現場を体験して

◆バリアをなくしたい

障害を持つ方と接する機会があったのですが、初めはどうしたらいいか分からず戸惑うこともありました。でも相手をよく見てコミュニケーションをとることで、お互いの気持ちを通じることができました。

障害を持つ方への理解を深められた反面、社会ではまだきちんと理解されていないこと、段差がいたるところにあることなど、「バリア」がたくさんある事実が気付きました。

この実習で感じたことを、これからのボランティア活動に活かしていきたいと思っています。
(立正大学社会福祉学部 実習生)

◆改善点がいつばい

信大の周りを車イスに乗ってみて、一番大変だったことは段差でした。今までは不便なく身動きできるものと思っていましたが、坂道や路上の障害物、またトイレなど、乗る人の視点に立った改善点があることを感じました。

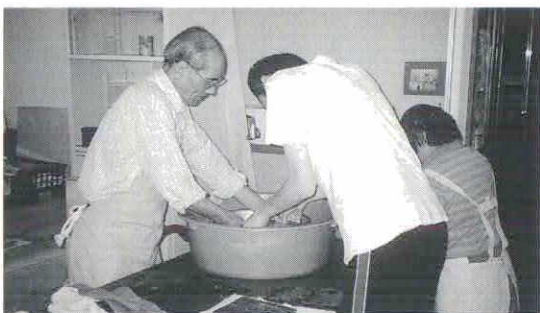
また「びあねつと21」では、障害を持つ方の自立とは「自己選択・自己決定・自己責任」などと教わりました。
(信州大学医学部 保健学科 一年次実習生)

◆長く続けたい

何か役立つことができればと思います、希望の家で作業のお手伝いをしています。

自主製品作りや、外注のダンボール組立作業が主な仕事の内容ですが、作業以外の行事にもできるだけ参加するようにしています。

若者と過ごす機会の少ない私にとって通所者の皆さんの会話を聞いているだけで楽しく、また所作の端々に仲間への思いやりが感じられ、心が和みます。私には希望の家での半日がとても貴重なものとなっています。できるだけ長くお手伝いできるように頑張ります。
(共同作業所ボランティア)



砕いた牛乳パックをすいて、はがきを手作り

ふ く し ・ み ゃ ら ば ん

赤い羽根共同募金にご協力を

全国一斉 10月1日～12月31日
 ー 地域の福祉、みんなで参加 ー
 今年度目標額は 31,656,000円 です。

赤い羽根共同募金は、町会児童遊園地の整備、福祉自動車の貸出し、紙おむつ給付、災害見舞金、町会福祉モデル事業、社会福祉大会、介護者のつどい等、私たちのまちの福祉活動を進めるための募金です。誰もが幸せに暮らしていくために、今年もみなさんのご協力をお願いいたします。

■受付窓口・問い合わせ先

松本市双葉4-16 松本市社会福祉協議会内
 長野県共同募金会松本市支会 (☎27-3381)



**「松本市社会福祉協議会
 五十年のあゆみ」が発刊**

二年間の編纂作業を経た市社協五十年の記念誌（年表を含む）が発刊されました。その内容は、

- ・市社協成立までの経緯と、その後現在までの動き
- ・社協が関連する地域福祉の取組み・福祉施設や各種団体、地区社協との係わりなどです。
- ・A4判 上製本 価格4,500円

■問い合わせ・申し込み先

松本社会福祉協議会 地域福祉課 (☎27-3381)

松本市高齢者作品展 作品募集

高齢者が趣味として制作した作品を募集し展示します。

- 募集部門 絵画・写真・書・工芸・手芸
- 出品点数 1人につき3作品まで
- 締め切り 平成16年10月1日(金) 厳守
 ※作品搬入 10月13日(水)午後1時
- 展示日 平成16年10月14日(木)～15日(金)
- 会場 松本市総合社会福祉センター (双葉4-16)
- 申し込み 地区高齢者クラブ連合会会長
- 問い合わせ 松本市高齢者クラブ連合会事務局
 (☎27-3381)

読み聞かせ体験講座参加者募集

- 日 時 9月29日～10月27日 毎週水曜日(全5回)
 午前10時～正午(2時間)
- 会場 松本市総合社会福祉センター(双葉4-16)
 ボランティアセンター
- 内容 技術研修 ①基礎練習 ②読みの練習
- 対象 視覚障害者の福祉に熱意を有する方
 読み聞かせ朗読ボランティアに関心のある方
- 定員 15名(定員になり次第締め切ります)
- 申し込み 松本市社会福祉協議会
 ボランティアセンター (☎27-3381)

9月15日から21日までの1週間は「老人週間」です！

これは「国民の間に広く老人の福祉についての関心と理解を深めるとともに、老人に対し自らの生活の向上に努める意欲を促す」という趣旨のもと、平成14年に定められたものです。

チャレンジ町会福祉

—うちの町ではいま—

**常に頼りにされる
 福祉を心がけて**

城北地区・蟻ヶ崎東町会

蟻ヶ崎東町会「結の会」は、高齢者や一人暮らしの方が安心して暮らせることを目的に、平成十二年に発足しました。今日まで年を追うごとに利用者が増加し、今年もすでに二十件を超える利用がありました。

内容は多種にわたっていますが、家の草取りなど一人では大変なこと、また特に冬季の除雪は会員が対象世帯を戸別に担当し、要請の有無にかかわらず実施しています。

また懸案となっていた高齢者や一人暮らしの方の調査を行った結果、終日まったく会話のない人やテレビを見てい



一人暮らし高齢者宅の草刈り

(町会長 西村 忠)

てほとんど外出しない人が多くいました。この内容を踏まえて、会話とくつろぎの場として「だべりの会」が本年八月より発足し、ストレスの解消や健康づくり、レクリエーションを組み込み実施しています。また、この茶話会を重ねるなかで、生きがいづくりとして忘れ去られる伝統行事や、昔の生活様式を聞き取り、まとめてゆくことも計画しています。

幸いこの会の活動には多くの方からの協力や支援をいただき、作業器具を購入したり、収納庫を設置することもできました。これからも利用者のニーズに沿ってきめ細かな福祉を進めてまいります。